



徳川美術館 名品コレクション展示室

令和4年 9月21日(水)~12月15日(木)

展示期間 A:9/21(水)~10/16(日) B:10/18(火)~11/15(火) C:11/16(水)~12/15(木)

【第3展示室】

凡例:◎は重要文化財を示します。

大名の室礼 - 書院飾り -

大名の公式行事は、表御殿の「書院」あるいは「広間」で行われた。御殿の各部屋に設けられた飾り付け専用の空間一床の間・違棚・書院床一には、武家の故実によって各種の道具が飾られた。殿中の飾り付けや典礼を「室礼」といい、江戸幕府はその手本を室町幕府の故実にもとめたので、足利将軍家が秘蔵していた「東山御物」を第一に、唐物と呼ばれる中国製の品々を中心とした飾り付け法が規式とされた。

多くの書画や工芸品の産地が中国であっても、それらを飾り道具に採りあげ、とりどりに組み合わせ、調和の美を創り出したのは室町の武家社会であり、その美意識や価値観は、そのまま江戸時代の大名家に伝えられた。

No.	名称	作者・所有者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
広間					
押板飾り					
1	観音・梅竹図 三幅対	伝可翁筆 松平義真(梁川松平家3代)所用	室町	14-15	A
2	布袋・花鳥図 三幅対	狩野元信・伝正信筆 土屋家伝来	室町-江戸	16-17	B
3	寿老人・白梅・紅梅図 三幅対	狩野養川院惟信筆 個人蔵	江戸	寛政8年<1796>	C
4	青磁燭台		明	16	
5	青磁菊花文三ツ足香炉		元	14	
6	青磁竹節文中蕪形花生		南宋-元	13-14	
7	堆朱椿文香合 彫銘「張成造」		明	16	AB
8	堆朱椿文香合 彫銘「楊茂造」		明	16	C
9	火道具		江戸	18	
10	古銅饗養文分銅形花生 一对		明	15-16	
違棚飾り					
11	金紫銅鴛鴦香炉		明	15-16	
12	螺鈿龍吉祥文手箱		明-清	16-17	AB
13	吉祥文玉石堆錦手箱		明-清	17	C
14	螺鈿桃形楼閣人物図食籠		明	15-16	AB
15	螺鈿花鳥人物食籠		明	16-17	C
書院床飾り					
16	堆朱牡丹菊文軸台		明	15	AB
17	堆黒屈輪文盆		明	15-16	C
18	古銅雨龍形筆架		元	14	
19	忍草蒔絵刀子		江戸	17	AB
20	硝子柄刀子 附 黒漆箔押革鞘		東南アジア	17	C
21	靈芝柘榴椿文角軸筆		明	16-17	AB
22	梅花・詩文箔絵飾筆		清	18-19	C
23	蠟石布袋形文鎮		明	16-17	
24	古銅鳥形水注		明	15-16	
25	端溪臥牛硯		北宋	12-13	
26	染付高士観月図硯屏		明	16-17	
27	紫石卦算 二対の内		江戸	19	
28	堆朱松下人物図印籠		明	16-17	AB
29	堆朱人物虎図印籠		明-清	17-18	C
30	金銅仙蓋瓶形水注	徳川義直(尾張家初代)所用	明	15	

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
鎖の間					
上段の間					
1	端溪円硯		南宋	12-13	
2	◎純金台子皆具(金銀調度類三十四種の内)	霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	
次の間					
3	山水図 高木雪居筆		江戸	19	A
4	福祿寿図	徳川綱吉(5代将軍)筆 津田昌明氏寄贈	江戸		17 B
5	七言律詩「細雨空降云々」	徳川慶喜(15代将軍)筆	明治	19	C
6	唐銅玉取獅子香炉		江戸	18-19	
7	古芦屋八景釜	【第3展示室の見どころ -鎖の間-】 天井から炉の上に鎖を吊って釜が掛けられるようにしてあったところからこの名がある。この部屋では四季を通じて釣釜がもちいられた。茶室と書院(広間)の中間に位置する座敷で、性格的には書院に属し、接待などに半ば公式的に使われた。	室町	16	
8	唐物自在釜掛		明	16	
9	堆朱樹下人物図中次		明	16	AB
10	堆黒樹下人物図中次		明	16-17	C
11	染付遊牛図茶碗		明	17	
12	高麗鍍形水指		朝鮮王朝	16	
13	南蛮×切建水		東南アジア	16-17	
13	南蛮×切建水		東南アジア	16-17	